

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400029		
法人名	医療法人 城戸医院		
事業所名	ぶどうの樹	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市久富667-3		
自己評価作成日	平成26年8月12日	評価結果市町村受理日	平成26年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年9月1日	評価確定日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族会の強化 ・外出行事支援 ・癒しの日(セラピューティック・ケア) ・学習療法(希望者のみ) ・夢を叶えるプロジェクト(チームプロジェクト) ・ぶどう喫茶 ・ぶどうの樹サロン

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム名は“ぶどうの樹”であり、ホーム周辺には沢山の“ぶどう”が育てられている。畑の方のご厚意で、毎年“袋かけ”や“ぶどう狩り”もさせて頂き、ご利用者や職員も楽しみにされている。筑後中央幼稚園の園児との交流も行われ、ご利用者も愛おしい表情で子ども達を眺めておられ、職員も嬉しく思っている。季節を感じて頂くために、夏はそうめん流し、冬は鍋会等を行い、併設のデイサービスの方(馴染みの方)も一緒に生まれ、8月13日は“迎えだご”、15日には“送りだご”を作り、昔ながらの風習を職員も教えて頂いている。セラピューティック・ケアや学習療法を行うために職員も必要な資格を取得し、日々のケアに活かしており、「夢プロジェクト」も取り組み、担当職員と家族との関係を築き、会話も増えている。働きやすい環境も作られ、職員個々の自主性を発揮できる事を目標に、法人全体で職員の育成支援を続けている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき地域と関わっていく中で、その人の暮らしやすい環境づくりを行っている。	『第二の我が家のホーム、生きがいのあるホーム、開かれたホーム、家族と一つになれるホーム』を掲げ、毎朝のミーティングで唱和している。“家族と一つになれるホーム”の実践で、夢プロジェクトの取り組みを続け、担当職員が企画から実践まで一貫して取り組む姿勢が増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などにスタッフと利用者で参加したり、事業所の行事や祭りにも地域の方々にたくさん参加して頂いている。	週2回、ご利用者とごみ置き場の掃除をしたり、“ぶどうの樹サロン”やホームで行う餅つき大会等にも地域の方を招待している。毎月、筑後中央幼稚園の子ども達が来て下さり、ご利用者も喜ばれている。近隣のぶどう畑で、“袋かけ”やぶどう狩りをさせて頂き、ご利用者も楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会で認知症について話し合い、理解を得るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の運営・現状・各行事や取り組みを画像や映像を交えて分かりやすく報告し、意見や助言を頂き、サービスの質の向上に活かしている。	外部講師を招き、「オムツの効果的な使い方」や介護食の勉強も行われた。オムツに触れたり、ムス食などの試食も行われ、職員も含めて勉強になっている。“夢プロジェクト”も報告し、家族の方からも感想などを伝えて下さった。看取りケアの報告も行われ、ホームの取り組みへの意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か問題が起きた時や新しい取り組みをする際は頻繁に介護保険係を尋ね相談するように心掛けている。	運営推進会議に市の職員が交代で参加して下さり、顔馴染みになっている。リーダーや職員が市を訪問し、書類の提出や事故報告もしている。他の事業所の取り組み例等を教えて下さり、アドバイスも頂いている。市主催のグループホーム部会に副施設長が出席し、市の担当者と意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠する事なく、利用者、家族様が自由に入出入り出来る。	会議の中で、身体拘束が対応策として挙がる事はない。職員が見守りを行い、転倒時のリスク軽減のため、家族にヒッププロテクターを購入して頂いたり、居室の畳の端に緑のテープを貼り、転倒予防に努めている。感情が不安定な時には職員が手を握り、セラピューティック・ケアを行い、安眠に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加をしたり、勉強会などを行うことによって、虐待について正しい知識を学んでいる。また、利用者の身体の状態等、細かい変化まで注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し、管理者や一部の職員は、日常生活支援事業や成年後見制度に関する制度を理解している。	入居時に制度の説明をしている。成年後見制度を利用する方はおられないが、随時、制度の必要性の検討をしている。職員からの要望もあり、グループホーム部会で権利擁護の勉強を行う予定にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主介護者を適正に決定して頂き、十分に契約に理解をして頂く様、時間をかけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とはなるべく個別のコミュニケーションの機会をとる事で、本人の思いを探る。また、家族会の開催により、家族様からも、意見・要望を聞く機会を設けている。	家族会(年6回)で家族同士の団欒が行われ、行事の曜日等の希望を頂いている。家族と担当職員の交流の機会を増やし、“夢プロジェクト”の話し合いも行われている。「担当職員は変えないでほしい」等の要望も頂き、“ぶどうの樹”が研修場所である事や異動がある事等を丁寧に説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の報告・週間報告・リーダー会議の出席・年2回/全職員面接等、密に話せる場を設けている。	委員会活動の他、複数の業務も担当制にしている。担当が偏らないように配慮しながら、担当の振り分けは会議の時に自主的に職員に挙手して頂き、責任を持って行ってもらっている。職員同士のチームワークも良く、研修への希望等も聞かれ、職員の意見で「防災目標」を唱和するようにした。	代表が年2回職員と面接を行い、副施設長やリーダーも日々の業務の中で面談をしている。職員からの報告も増えており、今後も更に、より具体的なアイデア(対応策等)の報告ができるように、職員個々の育成を続けていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育プログラムを通し個人の能力アップを行っている。職員の特技や資格に応じた役割や行事を取り入れ、やりがいや向上心を持って働ける様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	新入職員には、教育担当者が指導を行い、悩みや疑問があれば相談にのり、抱えこまずに仕事に集中できるよう配慮している。	施設長と副施設長が面接している。男女・年齢問わず、お人柄等を大切にしており、採用前に職員の意見を聞く時もある。教育担当者のみが抱えこまず、チーム全体で指導を行う体制もあり、職員個々の目標を設定し、院長や施設長、副施設長、リーダーが日々指導を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、職員の議題として、人権について確認している。また、年1回は人権セミナーへの参加を義務づけている。	施設長等は「ご利用者の人権を尊重し、ご利用者が不快になるような声かけをしない」等を職員に伝えており、副施設長からも「ご利用者は目上の方、人生の大先輩である」事を伝えている。「人権セミナー」は複数のテーマがあり、職員が受講するテーマを決めており、学びの機会になっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の申し送りや、管理者より、職員の実力にあった研修の案内を行っている。参加したい研修があれば、勤務の調整を行いながら研修会に参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し、一緒に勉強会を行っている。また、当院内にて親睦委員会を開き交流の機会を設けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より、職員が積極的に声かけを行い、入居者様が困っている事や望みを聞き、それを職員同士で話し合い出来る限りの支援を行い信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャー・リーダー等が家族様と会議を行い家族の希望を聞き、職員全員が意志統一を行い、家族様の要望を受け入れる様に努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が必要とする、支援が分かり次第、職員同士で話し合い、必要とする支援に近づく様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳の気持ちを常に持ち、利用者の得意分野での力が発揮できるような場面を作り互いに支えられる関係を気付いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族来訪時や家族会などで入居者の近況報告を行い、御家族の意見を取り入れるような関係作りを行っている。また、各行事など一緒に過ごす時間が持てるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族からの聞き取りを行い、外出行事の際は、出来るだけ本人のゆかりの地を取り入れるような計画を立てて実施している。	ご利用者は地元の方が多く、大きな地図を指しながら、馴染みの場所等を教えて頂いた。“夢プロジェクト”で、ご主人の以前の職場訪問も行われ、家族とお墓参り(宮崎)に行かれた方もおられる。ぶどう喫茶や、併設のデイサービスを利用する知人や家族との会話を楽しまれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し、利用者同士が支え合いより良い関係が保てるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、病院のほうへ情報提供を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみではなく、生活を送る中での会話や表情から意向をくみとる様にしている。困難な方に対しては、家族から生活歴・性格・習慣等を聞き取り家族と相談した上で本人の希望に添える様にしている。	「夢を叶えるプロジェクト」を実施しており、ご本人と家族にアンケートを行い、意向の把握に努めている。城戸医院で担当者会議も行われ、ご本人や家族の希望を伺うようにしている。日々の生活では学習療法が行われ、回想法の中で昔の話(生活歴・使用していた道具など)を教えて頂いている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの活用、または、本人様や家族から入居前の情報を頂き、グループホームでの生活に取り入れる様にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子・行動パターン・介護時の様子等を記録に残し、職員全員で情報を共有する様にしている。また、月1回のカンファレンスを行い、現状の把握、介助方法の検討を全職員で行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行う事で、現場職員の気付きや、意見を計画に取り入れている。また、アセスメントにも、気付いた部分を記入してもらう事で、幅広く意見を取り入れられる様にしている。また、担当者会議に主治医が参加する等、関係者の協力が得られる場を作り、現状に合った介護計画に作成している。	ご本人と家族の意向を計画に反映している。ケアマネが介護計画を作成し、各職員が個別サービス計画を作成し、モニタリングも行っている。散歩、裁縫、買い物、家事、畑仕事等の他に、家族の役割や地域交流も盛り込まれている。主治医やOTからのアドバイスも頂き、留意点も記載されている。	計画の中に「夢を叶えるプロジェクト」の取り組みを盛り込み、個別具体的な目標(長期・短期)を設定していく予定である。職歴等を活かした計画にしていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に番号を付け、ケアの実践結果等を個人記録を記入する際に、その番号を記入する様にしている。情報の共有をしやすく、見直しの際に役立てる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設するデイサービスと音楽療法、オープンプログラムを通して交流している。また、セラピューティック・ケアや学習療法など個別に対応する時間もとる様にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な生活を送る為に近隣住民の方とコミュニケーションをとり、また、緊急時に協力を得られる様な関係作りに努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、グループホームの三者が情報を共有し適切な医療を受けられる支援を行っている。治療方針の決定は本人、家族が中心となり主治医との話し合いを充分に行う支援をグループホームが行っている。	城戸医院がかかりつけ医の方が多い。毎日のバイタル結果を院長先生にFAXし、2週に1回の往診を受けている。食事やリハビリの指導もして頂き、往診結果等は家族と共有している。他の病院には家族が通院介助し、主治医との担当者会議も行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が報告・連絡・相談をとることにより、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際、医療機関のソーシャルワーカーを通して医師、看護師等から情報収集を行い、退院後、スムーズにグループホームの生活に馴染める様に支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を交わしている。また、必要に応じて担当者会議を開き、本人、家族の希望する終末期の暮らし方、医療処置、対応方針を検討し、本人を中心とした、ケア実践が行える様、関わる全ての人が情報を共有し、取り組んでいる。	「最期はここで」と希望する方もおられる。主治医と支援方法を話し合い、個別計画を作成している。法人外の主治医の看取りケアも行われ、頻回に話し合いの場を持ち、連携が図られた。終末期は家族も宿泊し、ご本人のお好きな物をお口に入れて下さった。看護師との勉強会(嚙下等)も行われ、職員の観察力も高くなっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生の際の緊急マニュアルを作成し、全職員が把握している。また、普通救命講習、上級救命講習をそれぞれ職員は受けている。職員会議や筑後消防署に依頼し、定期的確認、訓練を実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を実施している。消防職員、防災会社職員、ご家族様の協力も得ている。だが、地域の方への呼びかけは毎回行っているが、参加につながらない。今後、夜間訓練のみ多く取り入れていく。	毎朝、防災目標を唱和している。系列の事業所と合同で訓練を行い、消防署や家族なども参加して下さっている。自動火災報知設備やAED等があり、地域の救命ステーションの認定を受けている。クンアプティを毎月設け、埃などの掃除も徹底し、水やカロリーメイト、ビスケット等を常備している。	地域の方にも訓練の広報を行っている。今後も地域の方に参加して頂くための方法を、運営推進会議で検討していく予定である。夜間の訓練の回数が少ないので、防災委員を中心に夜間想定訓練も計画していく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その方の自尊心を傷つけることがないように普段から言葉遣いや態度に注意を払っている。	新人職員にも入職時に言葉遣い等の指導を行い、「自分に置き換えて」と言う言葉も伝えている。ご本人に伝わるように方言も使い、名前の呼び方もアンケートを取り、ご本人と家族に了承を頂き、好まれる呼び方をしている。排泄介助の時は声かけに配慮し、個人情報の管理も徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や表情、また普段のコミュニケーションから本人の思いや希望を見出せるよう気を配っている。また、自己決定ができるように、こちらから様々な選択肢を準備するなどの働きかけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床・就寝時間等、利用者個人のペースに合わせて、これまでの生活と同じ様にして頂き、本人の希望に添って自由に来るように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容を定期的実施。季節の変わり目には、ご家族により衣替えをして頂いている。日々の服は出来るだけ本人に選んで頂き、行事や外出の際には、女性入居者に化粧の支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はテーブル拭きから食器拭きまでなるべくして頂き、入居者一人ひとりが能力に合った作業をして頂いている。	ご利用者も買い物に行かれています。菜園で採れた野菜や家族から頂いた野菜等も使い、栄養士が調理をしている。漬物やラッキョウなどを一緒に漬けたり、下ごしらえや下膳、食器洗い、お盆拭きなども手伝って下さる。お鍋を皆さんで食べられたり、職員が持参した竹で素麺流しも楽しめました。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の状態に合った、食事量やおにぎりにて提供する等、食事形態の工夫を行っている。また、食事や水分の摂取量は一日を通して記録し、把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に、入居者本人にして頂き、出来ない部分のみ介助を行っている。痛みや義歯の不具合などがあれば、状況によりご家族へ歯科受診の依頼を行い対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿や便意の訴えが困難な方には、排泄のリズムの把握に努め、また排泄チェック表で確認し誘導している。	排泄が自立されている方も多い。布の下着を着用する方もおられ、パッドの必要性も職員で話し合っている。トイレでの排泄支援を続けており、体調に応じて2人介助を行い、夜間はショート職員の応援も頂いている。排便体操も毎日行い、効果が見られており、排泄チェック表にも付けている。	トイレのドアを開けたまま排泄される方もおられ、職員がさりげなく閉めている。「開けておいて」と言われる時も多く、今後も羞恥心やご本人の思いにも配慮しながら、対応策の検討を続けていく予定である。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の排便体操の実施と散歩などの運動により、便意を促す効果と便を押し出す腹筋の維持に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好まれる方に対しては、毎日入浴可能としている。	入浴回数や時間などの要望に応じた支援をしている。湯船に浸かり、季節に応じて柚子湯やみかん湯等を楽しまれ、職員との会話も弾んでいる。「ゆっくりと入りたい」と言われる方は、ドアの外で見守りしている。入浴を拒まれる時は無理強いせず、時間等をずらして入浴して頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で生活されていた時と同じ様な慣れ親しんだ家具や布団を持ち込んで頂き、環境作りに取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬に関しては、職員全員が用法用量を把握し行っている。また、主治医や看護師との連携を図り服薬の支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・散歩・園芸・力仕事等を日常で行って頂き、昔の生活パターンを取り入れて楽しく過ごしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩に出かけたり、テラス等で、日光浴を行っている。また、ご家族・ご本人の要望に応じて「夢プロジェクト」として外出等の支援を行っている。	天気の良い日は公園や住宅街を散歩し、近所の飼い犬との触れ合いも楽しんでいる。中山大藤や桜、ひまわり、秋桜、紫陽花などのお花見を楽しみ、家族も一緒に行かれている。セキアヒルス（南関）や“みやま道の駅”にも行かれ、回転寿司やバイク等も楽しまれた。家族と買い物に行かれたり、自宅に帰られる方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に合わせてGHで金銭管理を行っている。買い物やイベントなどでお金を払う際、出来るだけ自身でお金を支払う行為を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に事前に協力体制をとって頂くようにして、本人の希望する際には電話出来るようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には、ソファを設置し、入居者様同士でコミュニケーションが取れる様にしている。テレビを見たり娯楽スペースを作っている。カウンターにはお茶を飲んだり、食事の準備を一緒に行える空間を作っている。また、バルコニーは、中庭の草花を眺めながら日光浴や食事が取れる様にしている。	家族が持ってきて下さるお花を飾っている。カレンダーには今日の日付に印を付け、日付の確認が行われている。テレビの前にはソファが4つあり、ご利用者同士で団欒されている。廊下には壁新聞が貼られ、思い出話をされており、雑巾縫いやリハビリ、学習療法も行われている。外にはウッドデッキもあり、お茶を楽しまれる時もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを数台置くことで、好きなところで過ごして頂ける様にしている。、テレビ前にソファを4台置いて、みんなで過ごせる共有の空間を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物を持ち込んだり、居室内に掲示する事で、本人の過ごされた環境に近づけるよう工夫している。また、入居者・家族の希望によって、居室内に畳やカーペットを敷くなどして、快適に過ごして頂いている。	居室内には写真や手紙等を貼り、使い慣れた家具や化粧道具、アルバム等も持ち込まれている。家族が観葉植物を持ってきて下さり、ご本人や職員が霧吹きをしている。ベッドを希望する方はおられず、マットに布団等を敷かれたり、畳を持参している方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の必要なカ所に、手すりを設置し出来るだけ本人の力を活かした安全な生活が送れる環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		